

セラミック九州

佐賀県立九州陶磁文化館報
有田焼創業400年記念 特別号

ARITA
EPISODE 2
BY SAGA PREFECTURE

No.53

発行 2017. 3. 31

編集 佐賀県立九州陶磁文化館

館長 鈴田 由紀夫

〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1

TEL.0955-43-3681 FAX.0955-43-3324

<http://saga-museum.jp/ceramic/>

E-mail: kyuto@pref.saga.lg.jp

このセラミック九州No.53では、前号にひきつづき、有田焼創業400年記念特別号といたしまして、平成28年度に開催したさまざまな事業をご報告いたします。シリーズ「やきものの技法」「やきものにみる文様」は、今号もお休みいたします。



そめつけはなからくさもん こざら
〈染付花唐草文小皿〉

肥前・有田
1610～1630年代
九州陶磁文化館所蔵 柴澤一仁氏寄贈

朝鮮系技術を基盤としつつ中国風の製品をねらった日本磁器創始期の実態を示した作品。見込みは中国磁器などにみられる蛇の目釉剥ぎを施した上に朝鮮陶磁に由来する砂目積みの手法を併用し、内面の二方に相対する染付の花唐草文を描く。この種の砂目積み磁器の伝世例は非常に少なく、数種類しか知られていない。佐渡の旧家に伝世したという10枚のうちの7枚である。

～ごあいさつ～

有田焼創業400年を超えて

昨年、西暦2016年（平成28年）は、有田焼創業400年を記念する年とされ、有田焼をとりまくさまざまなプロジェクトが計画されました。

1980年（昭和55年）に開館した当館にとっては、初めての有田焼創業にまつわる記念の年を経験しました。創業400年を記念し、8月から年明け1月にかけて「人間国宝と三右衛門」展、「日本磁器誕生」展、「日本磁器の源流」展という特別企画展を連続して3つ開催し、予想以上の多くのお客様にお越しいただいたところです。

「人間国宝と三右衛門」展のオープンに合わせて、当館アプローチデッキには、「USEUM ARITA（ユージウムアリタ）」という期間限定（8月11日～12月25日）で仮設のレストランが佐賀県有田焼創業400年実行委員会によって開設されました。このレストランは、佐賀の食材にこだわった料理を、人間国宝（井上萬二氏、中島宏氏、今泉今右衛門氏）と三右衛門（今泉今右衛門、酒井田柿右衛門、中里太郎右衛門）の作品を使って楽しむ、日常では体験できない特別な食空間を演出したものでした。

このほかにも当館は、有田町の日本磁器誕生・有田焼創業400年事業実行委員会が企画する「400年有田の魅力展」や、新聞社が開催する「13代今右衛門×

14代柿右衛門」展、「明治有田 超絶の美」展、「ARITA 400 project」の成果発表である「メゾン・エ・オブジェ帰国展」など、各地で開催される記念展に協力することで、全国的な創業気運を盛り上げることに努力しました。

有田焼創業400年を記念するさまざまな事業は、好評のうちに終了しましたが、私ども九州陶磁文化館にとって、昨年はたいへんショッキングな天災もありました。4月14日、16日を中心に発生した熊本地震です。当館および所蔵品には影響はなかったものの、熊本地方では、甚大な被害がありました。多くの陶磁器も破損したと聞いています。九州の陶磁文化に貢献するという設立理念をもつ当館にとっては、熊本の陶磁文化の一助となることを願わずにはいられませんでした。そこで、本年度の秋には「熊本のやきもの」展を開催することを企画しました。

豊かな自然にはぐくまれた、美しい熊本のやきものを紹介したいと考えています。熊本地震の復興を願いながら、目下準備を進めています。今後も九州の陶磁文化に貢献できるよう、努めていきたいと思ひます。

佐賀県立九州陶磁文化館 館長 鈴田由紀夫



人間国宝と三右衛門 展示風景



日本磁器誕生 展示風景



USEUM ARITA



日本磁器の源流 展示風景

～平成29年度特別企画展のお知らせ～

特別企画展 熊本のやきもの

○趣 旨

熊本では江戸時代から多様な陶磁器が生み出されました。陶器では、江戸前期には朝鮮陶工の技術をもとに始められた繊細な象嵌模様を特徴とする八代の高田焼や豪快な流し掛け装飾の荒尾の小代焼が始まり、今日でもその伝統は守られています。県南部の人吉地方でも一勝地焼や上村焼などが作られ、その地域の日常生活の需要に供されました。

一方、天草の高浜焼や宇土の網田焼など良質の天草陶石を背景にして、有田などの肥前磁器とも違う特徴ある磁器が作られました。

このような、九州を代表する豊かさを持った熊本のやきものは、平成28年4月14、16日を中心として発生した熊本地震により、少なからず被害を受けたと聞いております。

本展は、伝統をもつ熊本のやきものの豊かな美と力強さを紹介し、併せて熊本地震の復興の機運の継続と盛上りに資することを願い、開催するものです。

○展示構成（予定）

- 1) 八代焼
- 2) 小代焼
- 3) 網田焼
- 4) 天草のやきもの
高浜焼、水ノ平焼、内田皿屋、楠浦他
- 5) 人吉のやきもの
一勝地焼、上村焼など
- 6) その他 松尾焼など

○主 催 佐賀県立九州陶磁文化館

○会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室

○会 期 平成29年10月6(金)～11月26日(日)

○休 館 日 月曜日（10月9日(月)・祝は開館）

○出品件数 約110件（予定）

○観 覧 料 有料

○展示解説 会期中毎週土曜日 14:00～15:00



線影藁灰釉流瓶
肥後・小代
19世紀前半～中葉
佐賀県立九州陶磁文化館蔵



白磁象嵌水鳥文急須（白高田）
肥後・八代
19世紀後半
佐賀県立九州陶磁文化館蔵



象嵌明和・喜楽銘茶碗
肥後・八代 平山窯
明和二年（1765）
佐賀県立九州陶磁文化館蔵

ヨーロッパの肥前陶磁器を訪ねて 12

在欧の知られざる19世紀の大花瓶

Tall Arita Vases of the 19th Century Found in Western Countries

2016年に有田焼創業400年を迎えるのを記念して行われた「明治有田超絶の美」展は、19世紀後半から20世紀初頭にかけて欧米に輸出された明治有田の優品をまとめて見る機会となり、この時代への研究者の関心をさらに高めることとなった。世界各地に運ばれたまま日本の研究者が目にする機会がない大作のいくつかを、今回の展覧会の図録と論考集を参考に紹介したい。

1) 染付に色絵と漆の装飾、底に銘なしの大花瓶一对
英国ロンドンのサウスサイド・ハウス(Southside House) 所蔵 高さ166cm 図1、2、3

ロンドンのウィンブルドン(Wimbledon)にあり、Historic Houses Association (略称HHA。未だに個人で持ち続けている屋敷の協会) の一員として年に期間を定めて一般公開している屋敷の音楽室とよばれる部屋にあり、もとはフランスのスペイン国境に近いビアリッツ区(Biarritz) のムリスコ湖(Mouriscot Lake) を見下ろす丘の上に1879年、英国のチューダー様式で建てられた家、ヴィラ・ファンソン(Villa

TANAKA, Shigeko

田中恵子

- 日本アジア協会副会長
- 東洋陶磁学会(日本) 会員
- The Oriental Ceramic Society (London) 会員

Françon) に置かれていたが、1929年の大恐慌で大きな経済的損失を蒙ったこの家の所有者は、1930/31年にこの家をたたみ、この一对の大花瓶を含む家財の多くを英国に持ち帰った。この家と家族に関してはSouthside Houseで検索すると出てくるのでここでは省略するが、オランダとの縁が深く17世紀のオランダの建築様式の影響を受けた家とのことで、VOC扱いの17世紀の肥前磁器があるのではと期待して、2001年1月に訪れてみたが、この明治の大花瓶が一对あるのみであった。

それ以来何度かその家を訪ね、底部になにか銘が入っていないか、動かす場合には写真に撮って見せてくれるように頼んでいたが、2015年夏にとうとう、下の台からはずして底を見せてもらうと無銘で目跡が5個あった。器体の装飾は上から染付に色絵、蒔絵、染付、蒔絵、染付に色絵、と5段に分かれ、口縁は12の波縁で、一番大きな胴の部分は金、赤、黒などの色漆で鶴や雲が描かれ、上下の部分の帯状の細かい染付文の中の丸文には色絵の草花文が描かれ、装飾に手間をかけている。



図1 色絵蒔絵鶴文大花瓶
有田 19世紀後半
サウスサイド・ハウス ロンドン イギリス



図2 色絵蒔絵鶴文大花瓶(底部)
有田 19世紀後半
サウスサイド・ハウス



図3 色絵蒔絵鶴文大花瓶(部分)
有田 19世紀後半
サウスサイド・ハウス



図4 染付大花瓶
有田 19世紀後半
ハバナ国立装飾美術館 キューバ

- 2) 染付の大花瓶一对 キューバ (Cuba)、ハバナ (Havana) 国立装飾美術館 (Museo Nacional de Artes Decorativas) 所蔵 高さ185cm 胴径60cm 図4

口縁は大きな波縁で、器体表面の装飾は四段に別れ、胴体には上から下までの窓が二カ所、その間に大きな丸文を置き、そのどれもが細かい文様に埋め尽くされている。この一对は階段の両脇にあり、身長よりも高く、階段を上って上から口を見ると口縁内側に染付で簡単な折枝文様が4箇所に描かれている。

- 3) 染付に釉下彩の大花瓶 ベルギー (Belgium)、ブリュッセル (Brussels) サンカントネール博物館 (Cinquantenaire Museum) 所蔵

高さ推定198.5cm 口径65cm 底径36cm 図5、6 継ぎ目から割れていて、そのまま重ねたのでは安定しないので、ワイヤーでつり下げている。口縁が大きな波縁の首の部分はその下の部分に差込むようになっている。この銘は胴体の底に近い染付の蓮弁文の一つを白抜きにし、その中に染付で、「大日本肥後山信甫造」と書かれている。

- 4) 染付の大花瓶一对 スペイン (Spain) マドリッド (Madrid) 国立考古学博物館 (Museo Arqueológico Nacional) 所蔵 高さ153-155cm 口径 43cm 胴 60cm 底径 33cm

竹林に二羽の鶴の立ち姿が描かれ、足下には草花が立体的に描かれている。

2015年夏に、公開されていない部屋の片隅に置かれているのをキュレーターと通った時にたまたま発見し、底になにか書かれていないか、見てくれるように依頼し、2016年にどちらの花瓶にも底に蘭のマークの下に縦書きに染付で、「日本肥前有田香蘭社深川製」と書かれている写真が送られて来た。

- 5) 染付の大花瓶一对 英国 スコットランド (Scotland) の某貴族の館所蔵 図9、10

胴体には鯉が向き合うように描かれており、初めから一对として作られている。

底には蘭のマークの下に縦書きに染付で、「日本肥前有田香蘭社深川製」と書かれているのを1994年に訪問した時に写真を撮らせてもらっていたが、前述のようにスペインでも形は違うが同じ銘の一对の染付の大花瓶を見つけたので、ここに紹介する。

これら5箇所の来歴のわからぬ大花瓶について、これまでの研究からわかることがあれば所蔵館に伝えたく、ご教示いただければ有難い。



上下図5、6 染付釉下彩花鳥文大花瓶
および銘部分
有田 19世紀後半
サンカントネール博物館
ベルギー ブリュッセル



上下図7、8 染付竹鶴文大花瓶
および銘部分
有田 19世紀後半
マドリッド国立考古学博物館
スペイン



図9、10 染付釉下彩鯉流
水文大花瓶および銘部分
有田 19世紀後半
個人蔵 スコットランド



平成28年度特別企画展の報告

有田焼創業400年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館 人間国宝と三右衛門

- 主催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第2・第3展示室
- 会期 平成28年8月11日(金)～9月25日(日)
- 休館日 月曜日(9/19(月)・祝は開館)
- 出品件数 81件
- 観覧料 無料
- 展示構成
 - 1) 井上萬二作品 10件(うち1件は食器)
 - 2) 中島宏作品 10件(うち1件は食器)
 - 3) 今右衛門窯作品 14代作8件
13代作7件
12代作2件
11代作1件
10代作1件
保存会作1件(食器)
 - 4) 柿右衛門窯作品 15代作5件
14代作6件
13代作4件
12代作3件
技術保存会作1件
食器1件
 - 5) 太郎右衛門窯作品 14代作5件
13代作5件
12代作6件
11代作4件
(うち1件は食器)

○内容

佐賀県の有田焼や唐津焼は日本を代表する焼物として知られ、そのなかでも有田の今右衛門窯、柿右衛門窯、唐津の太郎右衛門窯はそれぞれの伝統と歴代の作品によって高い評価を受けてきました。また歴史ある産地の風土の中から人間国宝を輩出し、今日では有田の井上萬二氏と14代今泉今右衛門氏は白磁と色絵磁器の、武雄の中島宏氏は青磁の技術保持者として人間国宝に認定されています。

この特別展は有田焼創業400年を記念し、人間国宝の井上氏、中島氏、今泉氏の代表作と、いわゆる三右衛門の歴代の作品を展示し、伝統によって生み出された日本を代表する作品を紹介しました。

◎関連イベント 期間中、展覧会にあわせて下記のものおしが開催されました。

- 人間国宝および三右衛門による展示解説
 - 8月21日(日) 井上萬二氏
 - 8月27日(土) 14代今泉今右衛門氏
 - 9月10日(土) 14代中里太郎右衛門氏
 - 9月22日(木)・祝 15代酒井田柿右衛門氏
- ミュージアムコンサート
 - 8月28日(日) 逆瀬川剛史による
アコースティックギターソロコンサート
 - 9月4日(日) アルモニア管弦楽団メンバーによる
演奏会
- 絵付け体験など
 - 8月14日(日) 唐津焼絵付け体験
 - 9月11日(土) 武雄焼手びねり体験
 - 9月18日(日) 有田焼絵付け体験
- ワークショップ
 - 8月27日(土)・28日(日)
デザインワークショップ 「カッティングシートを使って、オリジナルうちわを作ろう！」
 - 9月10日(土)
有田焼アクセサリー制作体験 「有田焼で自分だけのオリジナルアクセサリーを作ろう！」



開会式テープカット



会期中、記念すべき開館から300万人目のお客様をお迎えしました。

平成28年度特別企画展の報告

有田焼創業400年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館

日本磁器誕生

- 主催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室
- 会期 平成28年10月7日(金)～11月27日(日)
- 休館日 月曜日(10月10日(月)・祝開館)
- 出品件数 132件
- 観覧料 無料
- 展示解説 会期中毎週土曜日 14:00～15:00
- 展示構成
 - 第1部 日本磁器の創始と色絵の出現
 - 1) 日本磁器の創始
朝鮮系技術の導入による日本磁器の創始と国内流通
 - 2) 技術革新と色絵の出現
中国磁器の影響と有田の技術革新
 - 第2部 肥前磁器の発展と継承
 - 1) 海外・国内の市場開拓と様式の完成
海外・国内への展開と柿右衛門様式、古伊万里金襴手様式の確立
 - 2) 日本磁器の最高峰
将軍家献上の鍋島焼
 - 3) 近代の躍動と現代への継承
海外輸出の再興と超絶技巧
 - 第3部 日本各地の磁器誕生と多様性
波佐見焼、平戸焼、亀山焼、高浜焼、薩摩焼、姫谷焼、砥部焼、京焼、三田焼、東山焼、瑞芝焼、偕楽園焼、九谷焼、瀬戸焼、犬山焼、切込焼など
- 内容

有田を中心とする日本磁器400年を振り返り、その多様性と美を再認識するものです。日本で最初の磁器が17世紀初頭に有田で創始され、2016年に創業400年を記念するにあたり、有田磁器の革新と発展を軸に日本磁器400年の歩みとその美を紹介しました。



会期中、伝統的有田焼再認識プロモーション事業として、佐賀県文化課主催の国際学芸員サミット2016が、開催されました。

◎関連イベント 期間中、展覧会にあわせて下記のものおしが開催されました。

- 展示解説 毎週土曜日
14:00～15:00
- 開催記念講演会 11月6日(日) 13:00～15:00
講師：本展監修者 当館名誉顧問 大橋康二「日本磁器始まりの謎の解明と、有田磁器発展の歴史」(会場：講堂)
- 特別記念講演会 11月20日(日) 13:30～15:00
講師：美術古陶磁復元師 蘭山浩司氏「～よみがえる名品～色鍋島の修復について」(会場：講堂)

このほか、1000人目ごとの来館者に、有田焼をプレゼントする企画を実施しました。

会期中の10月21日(金)は、有田焼創業400年を祝う記念式典参加のために有田を訪問されました秋篠宮真子さまの御成りがありました。



展覧会チラシ



展示風景

平成28年度特別企画展の報告

有田焼創業400年記念イヤーイベント in 九州陶磁文化館
日本磁器の源流

- 主催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室
- 会期 平成28年12月9日(金)～
平成29年1月15日(日)
- 休館日 月曜日 1月2日(月)・(祭)と
1月9日(月)・(祝)は開館
- 出品件数 602件(うち富永コレクション:554件)
- 観覧料 無料
- 展示構成

第1章 中国染付のはじまり

染付の源流、元・明時代前期の景德鎮染付磁器。

第2章 戦国大名が求めた景德鎮磁器

全国の城などから出土する景德鎮磁器

第3章 織豊政権時代の中国磁器

景德鎮磁器の盛行と漳州窯磁器の登場

第4章 有田磁器が目指した明末の中国磁器

日本向けの古染付とヨーロッパ向けの芙蓉手。
景德鎮磁器、漳州窯磁器とその影響を受けた初期の有田磁器

第5章 有田磁器と競った中国磁器

清初のヨーロッパ向け景德鎮磁器と東南アジア
向け福建磁器

第6章 清朝後期の中国磁器と中国磁器写し

明末中国磁器写しと清朝磁器の影響

○内容

日本で最初の磁器は17世紀初頭に有田で誕生しました。2016年の創業400年を記念するにあたり、現在の有田焼の源流であり、世界市場でライバルとなった中国磁器との影響関係を、平成27年度にご寄贈いただいた「富永コレクション」の中国磁器を中心に紹介しました。

「有田焼創業400年」を契機に、長く世界市場のスタンダードであった中国磁器を、1610年代に誕生した有田磁器が目指し、越えようとした有田焼の視点から見るものです。



記念講演会

- ◎関連イベント 期間中、展覧会にあわせて下記のもの
よおしが開催されました。

- 展示解説 会期中12月10日以外の毎週土曜日
14:00～15:00

- 記念講演会① 12月10日(土) 13:00～14:00
講師:当館名誉顧問 大橋康二「中国染付磁器の始まりから発展と、有田磁器との関わり」(会場:講堂)

- 記念講演会② 12月10日(土) 14:15～15:15
講師:神奈川県埋蔵文化財センター 富永樹之氏
「戦国・江戸時代における輸入中国染付の食器利用
—出土品との比較から—」(会場:講堂)



展覧会ポスター



比較展示の一例
左2点 富永コレクション
右2点 山辺田遺跡出土品(有田町所蔵)